森の救世種 コウヨウザン 現る！

課題

このままでは、森林も農地も機能しなくなってしまう。

「木材価格が低迷している上に、成林まで50～60年を要するスギやヒノキは負担が子や孫の代まで残ってしまう ― 再造林をためらう林地所有者が増えており、地域の森林資源の循環が課題となっています」そう語るのは、広島県森林整備・農業振興財団の寳来さん。「農業の面でも、谷筋奥という立地や高齢化が原因で耕作放棄地が増えているという問題を抱えています」

コウヨウザンの普及に取り組むみなさん

挑戦

“夢の樹木”、コウヨウザンを植えよう。

そこで、財団と樹苗農協が連携して始めたのが、コウヨウザンの苗木生産と耕作放棄地への植林を進めるプロジェクトです。10年前に国内最大の林分が庄原市で偶然見つかったコウヨウザンは、約30年で成林する早生樹種で、研究した結果、木材の強度はヒノキに匹敵するほど高く、切り株から再生するため伐採後の再造林の手間とコストがかからない“夢の樹木”ということが解ったのです。

広島県 農林水産局
林業課 林業技術指導担当
黒田幸喜 事業調整員

未来への期待

時間と空間の壁を越える、新しい林業のかたち。

プロジェクトは現在、優良な苗木を安定供給できる体制の構築と、育苗マニュアルの作成を、試行錯誤しながら進めている段階です。「成長の早いコウヨウザンなら林業の“時間の壁”を打ち砕き、耕作放棄地を植林に活用すれば“空間の壁”も乗り越えることができます」と寳来さん。「地域を元気にする、新たな林業が成り立つ可能性があると信じて、皆で努力し続けます」

一般財団法人
広島県森林整備・農業振興財団
寳来伸夫 理事長

一般財団法人
広島県森林整備・農業振興財団
相良伊知郎
常務理事／森林整備センター長

「農林水産業みらい基金」は、農林水のみらいをつくる全国の活動を応援しています。

みらい基金
一般社団法人
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA（農業協同組合）・JF（漁業協同組合）・JForest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは 農林水産業みらい基金 検索
http://www.miraikikin.org/